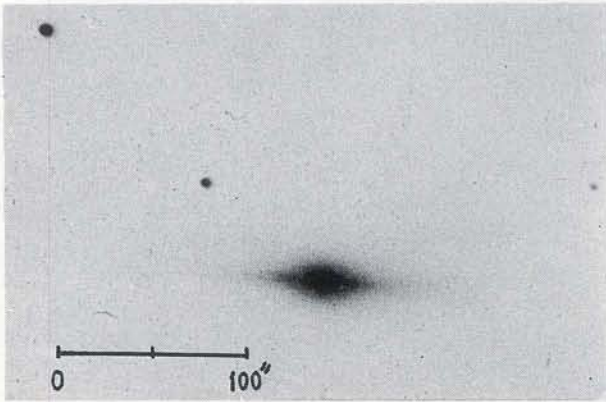


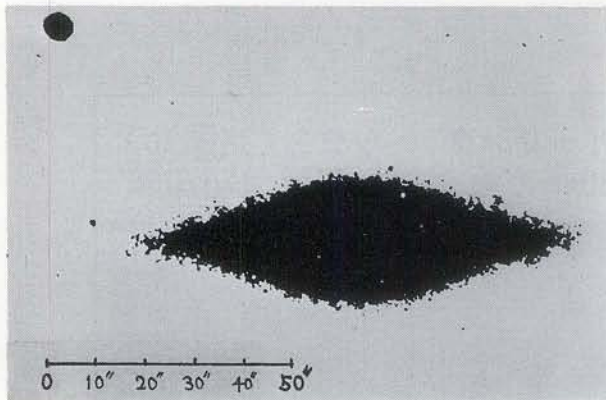
(1) コントラ・マップ作成の手順を、写真及び図 a~f にて示す。



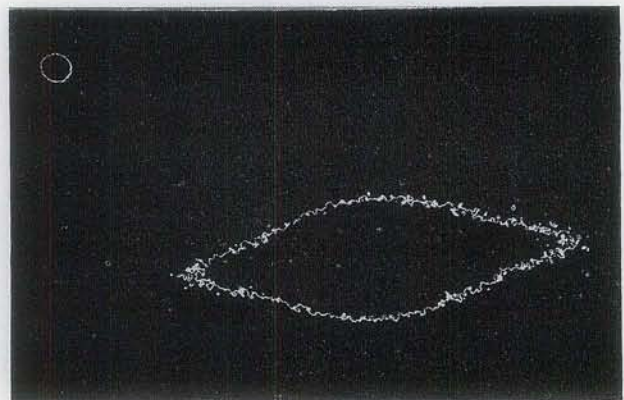
a: 原板 (NGC 3115)



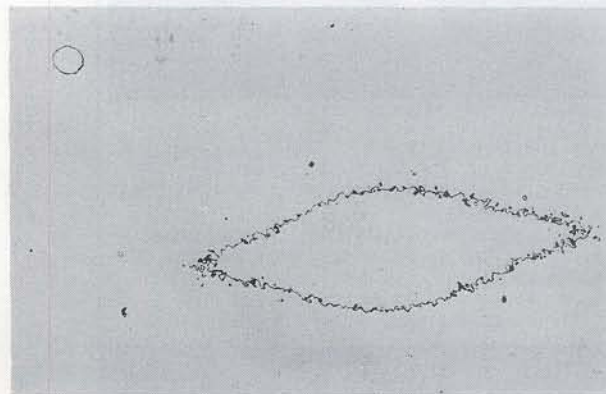
b: a からの密着ポジ



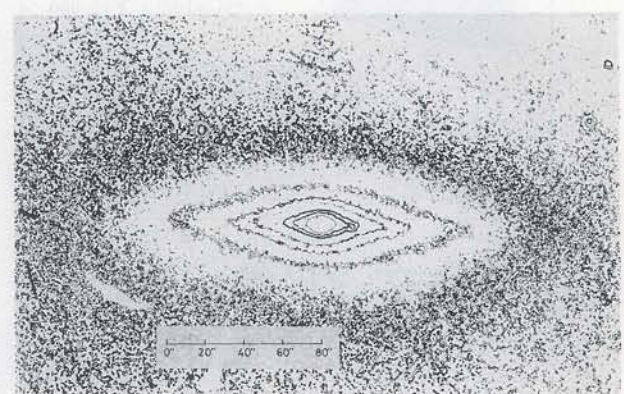
c: b から作ったネガ。像が小さければこのとき引伸す。



d: c から作った密着ポジ。この現像中にサバチェ効果を起こさせる。



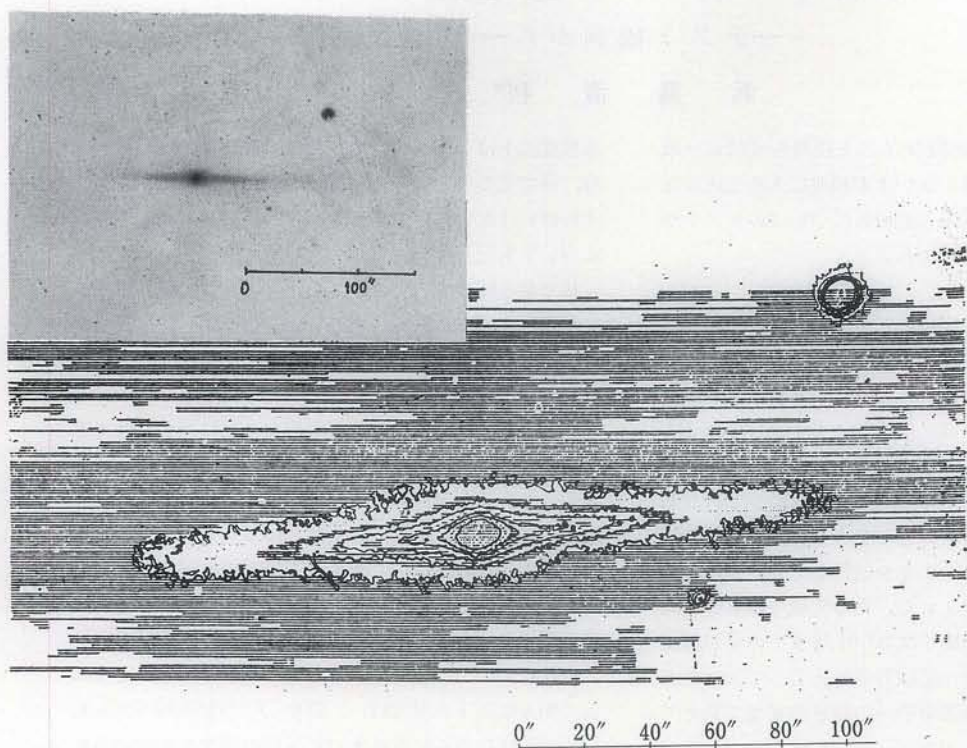
e: 見やすいように d を反転させた密着ネガ



f: 合成されたコントラ・マップ

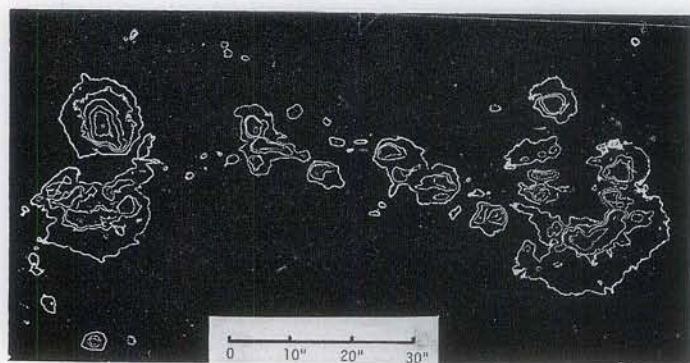
(a→b に際し、露光時間を変え、上と同じ一連の操作を行い、原板のいろいろな濃度に対するコントラを作る。合成には星・ゴミや原板につけたマークなどを目標にする。)

の等光度曲線の作成 (本文大脇氏記事参照)

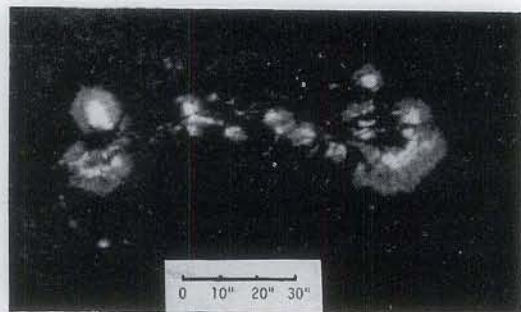


(2) アイソフォトメータによるコントアとの比較 (NGC 4762) 左上は、NGC 4762 の原写真でコントア・マップは引伸機の下での手描き。(アイソ・フォトメータはジョイス・レベルのもの)

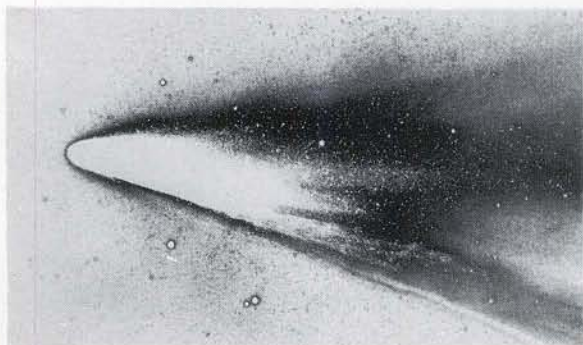
表紙の NGC 4565 及び原板 1, 2 は岡山天体物理観測所にて撮影。オリオン星雲は東京学芸大にて撮影。



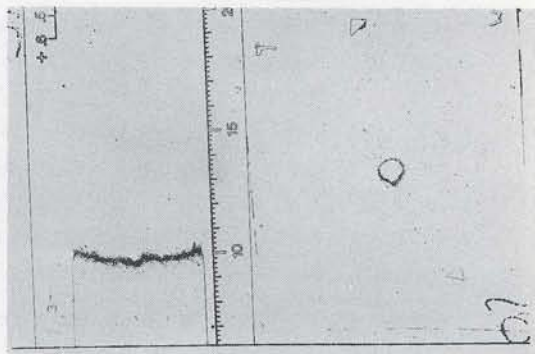
(3) 太陽黒点のコントア・マップ



左図の原写真 (東京学芸大 8 cm 屈折に 35 mm 判フィルム使用、観測・マップ共白田氏による)



(4) 低コントラストのフィルムを用いて作ったウエスト彗星 (1975 n) のコントア (香西氏提供)



(5) ウエスト彗星 (1975 n) の頭部のコントア。コントア・マップの左側に連続ウェッジを同時に焼込んであり、この目盛からコントアの本板での濃度がわかる。(堂平 50 cm シュミットによる。マップは小関氏作成)